

『ふしぎな図書館』

村上春樹/著 佐々木マキ/絵 講談社 2005 F/ム15/24



~「ふしぎな図書館」から逃げ出せるのか~

図書館で「本を探しているんですが」と尋ねると、地下の107号室を案内された。その部屋には小柄な老人がいてぼくの調べたかった「オスマントルコの税金のあつめ方」に関する本を3冊出してくれた。これらは禁帯出なので奥の部屋で読むようにといわれ、老人についていくとぼくはその部屋に閉じ込められてしまった。だまされたのだ……。

村上春樹の人気キャラクター「羊男」が登場します。

逃げる



『クイズ宇宙旅行 逃げる宇宙船に追いつくにはどう操縦する?』

中富信夫/著 講談社 2007 538/9/161



~宇宙で追いかけられたときに逃げる方法!~

宇宙旅行に行って怪しい宇宙船に追いかけられたら、あなたは どうやって逃げますか? 中高生のみんなが“おじさん・おばさん”と呼ばれる頃には宇宙旅行が当たり前になっているかもしれません。そのときのために宇宙の常識を学んでおきますか? すべてのクイズを解き終わったら、いつ宇宙旅行に行っても困ることはないかも……。

『こげぱん三都(京都・大阪・神戸)ぶらり旅日記 京都編』

たかはしみき/著 ソニーマガジンズ 2005 291/6/21



~現実から逃げたくなったら...~

こげぱんとその仲間たちが京都を旅しました。京都の名所やグルメ、お土産などを紹介しています。忙しい毎日に疲れたら旅に出てみませんか? 「そんな時間はない!」と言う方はせめて気分だけでも!

『ノーチラス号の冒険 1 忘れられた島』

ヴォルフガング・ホールバイン/著 平井吉夫/訳 創元社 2006  
F/H203/1-1



～伝説の潜水艦が再び!～

クリスマス休暇なのに寄宿学校に残ることになり落ち込んでいたマイクに友人パウルの父ヴィンター・フェルトが嬉しい申し出をしてくれた。自分の率いるドイツの軍艦レオポルド号に、マイクをはじめ同じく寄宿学校に残る4人の生徒を招待してくれたのだ。予期せぬ幸運に喜ぶマイクだったが、この招待は思いもよらない冒険の旅の始まりだった。

マイクたちは、執拗に追ってくるドイツ軍から逃げ切れるのか!マイクの出生の秘密、伝説の潜水艦...、あの(ノーチラス号で有名な)名作をモチーフに新しい冒険の始まりです!

『ターン』 北村薫/著 新潮社 1997 F/キ56/S5



～繰り返される“時”から逃れられるか～

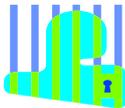
交通事故がきっかけで“時の環”に閉じ込められてしまった主人公。誰もいない世界で同じ一日を繰り返さなければならない。150日を過ぎてても助けはこなかった。永遠に逃れられないかと思ったその時、電話が鳴った・・・。

「時と人」シリーズ三部作の中の一冊です。

目覚めたら25年が過ぎてしまっていた『スキップ』と、同じ人と時を越えて再び出会う『リセット』の二冊もあります。

『怪盗紳士ルパン』(アルセーヌ＝ルパン全集 1)

モーリス＝ルブラン/著 竹西 英夫/訳 偕成社 1981  
958//S44-1



～気のむくあいだしが、牢のなかにとどまらないのです。～

(「獄中のアルセーヌ・ルパン」より)

このシリーズを読んだことのない人でも、きっと名前は知っている。怪盗ルパンが世に出たのは1905年。それから100年以上、読まれ続けています。逃げるも逃げないもルパンの気持ちしだい。逃げると決めたなら間違いなく相手の意表をついて逃げてしまう。ミステリーが苦手な人でもわくわくしながら読める短編集です。巻末は名探偵ホームズとの対決の話です。

『非常本』

山村 武彦 / 著 アニカ 2007 369 / 31 / 186



～大地震！！揺れがおさまったその時、すべきことは何？～

まず靴を履いて周りの状況を確認。避難するときの注意。避難後の生活のアドバイス...と順を追って説明されています。

最後の章では日頃の備えについて紹介されています。明日地震が起きたとしたらあなたは大丈夫？ちょっと考えてみませんか？

『いじめられている君へ いじめている君へ』

朝日新聞社 / 編 朝日新聞社 2007 371 / 4 / 403



～逃げることも必要～

もし君が今、いじめられているなら逃げましょう。逃げずに立ち向かえ、耐えるとは言いません。今すぐ逃げましょう。今いる場所がベストでなければ、ベストな場所を新しく探しましょう。

この本の中には、多くの人の言葉や体験が詰まっています。逃げるといっても、いろいろな方法があります。参考にしてみてください。

そして、もし君が今、誰かをいじめているなら自分自身に確かめてみてください。本当にあとで後悔しないかどうか……。いじめている君にも、この本を読んでほしいと思います。

『ぼくはアメリカを学んだ』

鎌田 遵 / 著 岩波書店 2007 081 / / 42 - 556



～違う世界へ！ 逃げた先で出会った人たちの輝き、その源はどこに。～

「大学進学は絶対無理」と先生に太鼓判を押され、高校に行く意味を見失った僕は中国に行くといって家を出た。家には1週間と聞いていたがそのまま消える気持ちだった。

...そこから長い旅が始まりました。そんなに得意でもないオカリナと沖縄三線を抱えての旅で、僕はさまざまな境遇の人と出会います。人種差別の標的にもなりました。けれど、そこには逆境に負けない人が持つ希望のきらめきとの出会いもありました。